



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年にひとりの日本人がインドシナ難民救援に参加したことを契機として誕生しました。以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 55 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「ここからだの飢餓」に応える働きをしています。

**ハンガー・ゼロ  
チャリティーコンサート  
東日本大震災支援を決定!**  
このチャリティーは、アフリカの人々とともに、**3 月に発生した東日本大震災被災者支援にも用いさせていただきます。**ぜひ、ご協力ください。  
【大阪】5 月 20 日(金)  
大阪女学院ホールチャペル (1,100 席)  
【愛知】5 月 21 日(土)  
金城学院大学ランドルフ講堂 (1,700 席)  
【広島】5 月 22 日(日)  
広島市南区民文化センター (554 席)  
【沖縄】5 月 26 日(木)  
うるま市民芸術劇場 (821 席)  
【東京】5 月 27 日(金) **会場/日程変更!**  
練馬文化センター 小ホール (600 席)  
※お問い合わせは、各事務所まで。  
会場へのお問い合わせはご遠慮下さい。



※全席自由。  
チケットは、チケットぴあ (Pコード: 134-376) 全国のサークル K・サンクス、セブンイレブンで。  
沖縄は、ローソンチケットで取り扱い予定。

## ハンガー・ゼロ・サポーター大募集中!

**今すぐ▶▶▶  
各種支援の  
お申し込み  
ができます!!**

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類を送らせていただきます。  
**お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。**

- ☐ ハンガー・ゼロ・サポーターとして協力します。  
毎月 ( ) 口、協力します。(1 口 1,000 円)
- ☐ JIFH 会員になり毎月定期的に財的協力をします。  
毎月 ( ) 口、協力します。(1 口 500 円)
- ☐ 「世界里親会」に協力します。  
説明書、里親会入会申込書を送ってください。
- ☐ 海外派遣スタッフを支援します。  
毎月 ( ) 円 ( ) スタッフ指定
- ☐ 海外派遣スタッフを支える会の会員になり、  
協力します。毎月 ( ) 口 (1 口 1,000 円)
- ☐ 郵便自動引落の申込書を送って下さい。

フリガナ  
氏名: \_\_\_\_\_ 男・女  
〒 \_\_\_\_\_  
フリガナ  
住所: \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
(電話) \_\_\_\_\_  
▼申込日: \_\_\_\_\_ 年 月 日▼

**FAX・072-920-2155**

シャローム  
保育園  
家族で  
募金運動

沖縄県沖縄市にあるシャローム保育園 (園長: 新垣美恵子) では、今まで子どもたちに飢餓の様子を話したり、街頭募金に協力したりして下さっていましたが、昨年「世界食料デー」にむけて募金箱を配って、子どもたちが家族とともに募金できるよう呼びかけて下さいました。



その結果寄せられた募金は 16,657 円 (39 口)。この募金は、飢餓と貧困に苦しんでおられる人々 (特にエチオピア、スーダン、フィ

リピン、カンボジア) のために用いさせていただきます。ありがとうございました。

ハンガーゼロ・サポーターのお申し込み拡大中です。運動への参加を感謝いたします。



日本国際飢餓対策機構

2011 No.249

4

# 飢餓対策 News



**東日本大震災・被災者支援  
緊急支援を展開中!!  
救援募金をお願いします**



**募金送り先: 郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構  
記入欄に「東北地震」とご明記ください**

★ご協力を感謝します★皆様に飢餓対策ニュースをお届けするために、毎月、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛 (大阪市など)、そして関西一円のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。ありがとうございます!

|       |                                                                |    |                                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------|
| ■発行者  | 岩橋竜介                                                           | 大阪 | 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1<br>TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155                 |
| ■発行所  | 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構                                              | 東京 | 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517 号室<br>TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782    |
|       |                                                                | 愛知 | 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F<br>TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114 |
|       | Web サイトアドレス http://www.jifh.org/<br>e メールアドレス general@jifh.org | 広島 | 〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号<br>TEL (082)831-1214 FAX (082)877-3961       |
| ■郵便振替 | 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構<br>※支援金は随時受け付けております。                | 沖縄 | 〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号<br>TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540      |





教室にいるのは低学年の子どもたち

## ケニア

▲シープケア・センターの子どもたちの様子

シープケア・コミュニティ・センターから日本の皆様へ

# 学校給食の継続を応援ください

シープケア・コミュニティ・センターは、2002年に発足したコミュニティベースの団体です。ナイロビ市の中心地から15kmのところにあるソエトスラムで暮らす母親、特にシングルマザー、また路上で食べ物を捜し求めるストリート・チルドレンの窮状を目の当たりにして、私たちは胸を打たれました。子どもたちの大半は、孤児など困難な状況にある子どもたちです。このソエトスラムの問題を軽減し、絶望の中にある子どもたちに希望を与えるこ

とを願って、私たちは活動を始めました。

しかしながら、今年の初めからラ・ニーニャ現象による干ばつがケニア全土で猛威を振るい、私たちシープケア・コミュニティ・センターの給食プログラムも大きな打撃を受けています。干ばつの影響が広がるにつれて食料価格が高騰し、既に干ばつ以前の価格の3倍近くになっています。このような状況の中で、400人の子どもたちに給食を提供することは困難を極めており、日本の皆さんにご支援をお願いしなければならない状況に陥っています。

ここで、皆さんに学校給食の重要性についてご理解頂きたいと思います。孤児や危機に瀕している子どもたちは、学校給食がなくなれば、もはや学校に通うどころではありません。再び路上に戻ってゴミ箱の中から食べ物を捜す生活を余儀なくされてしまいます。

この子どもたちが生きていくため、そして教育を受けて将来この現状から脱け出すために、学校給食は不可欠なのです。

既にケニア国内の他地域では、学校へ通えなくなった子どもたちが出てきています。シープケアセンターが関わっている子どもたちは、食料価格が上昇すれば、すぐに食べ物が手に入らなくなってしまような、貧しい人たちの中でも最も厳しい境遇にある子どもたちです。今すぐに手を打たなければ、シープケアセンターの子どもたちも学校に来ることができなくなるでしょう。

食料価格が高騰し続けているこの現状を、日本の皆さまにご理解頂き、学校給食を続けていくために必要な食料を賄うための財的支援を、ぜひお願いいたします。既に、十分な栄養のあるものは与えられなくなっているのが現状です。

●ハンガー・ゼロ・サポーターのお申し込みは、専用ウェブサイト <http://www.jifh.org/hungerzero/> からできます

## 活動地の

ボリビア多民族国

駐在 小西小百合

## 思い出

私は1996年11月から3年間、カリブ海の島・ドミニカ共和国で活動しました。赴任後2ヶ月半、首都で初めてのスペイン語クラスを受講しました。現在とは違い、当時は主に手紙や電話、FAXで通信し、私もスカイプはおろか個人ではe-mail通信の術も持たなかった時代で、高額なため日本に電話もかけられない状況でした。慣れない生活となかなか上達しない語学、そして気軽に話せる友人がいらないという寂しさも募ってきていた12月、仕

事納めを兼ねて国際飢餓対策機構ドミニカのクリスマス会が開かれました。職員が家族連れで招待され最後にプレゼント交換がありました。事前に贈る相手が決められており、お互いにプレゼントをして抱き合い祝福して이었습니다。しかし担当者が私に連絡するのを忘れたので、私はプレゼント交換する人もないまま、家族連れで楽しそうに帰っていく皆を横目に寂しく一人帰路につき、ある店に入りました。突然「サユリ！」と声をかけられて振り返ると、事務所

の女性、ジーナ・アコスタさんでした。「一人で買い物してる

## はじめてのともだち

## ジーナさん

の？」と話しかけてくれた時、大人げもなく私の目に涙が溢れました。「どうしたの？話してみて！」英語でか、つたないスペイン語でかよく覚えていませんが、とにかく「今日、私だけプレゼントがなかった。友達がいない、日本の家族や知人とも話せなくてとても寂しい」と心の内を打ち明けました。彼女は「オー、サユリ…」と私を抱きしめ、「私がここにいるじゃない。話したい時はいつでも話して。家にも遊びに来て」と言ってくれました。異国・

異文化の中で私にできた、自分の弱さを見せることができる初めての友達でした。その後も彼女はドミニカの文化や仕事内容を教えてくれたり、愉快的な会話で私を元気付けたり、私が交通事故に遭った際には彼女の家で世話をしてくれたり、何かにつけて私を思いやり助けてくれました。彼女は数年前国際結婚をし、現在はベルギーに住んでいます。ドミニカのことを思い出す時、まず彼女のことが思い出されます。他人のことを思いやれる優しいジーナ。彼女は今でも私にとって大切な友人です。



ジーナ・アコスタさんと小西小百合

注：ボリビア共和国は2009年3月に国名を「ボリビア多民族国」に変更しています

## 速報！東北地方太平洋沖地震支援 仙台市内で活動中



活動拠点の明泉幼稚園丸山キャンパスでの救援物資の仕分けの様子

当機構は、3月の「東北地方太平洋沖地震」の被災者救援のため、緊急支援活動を仙台市泉区の「明泉幼稚園」を活動拠点に進めています。毛布やパックご飯、おむつ（大人用も含む）、カイロなどの救援物資の配布とともに、市内2ヶ所で炊き出しサービスを行っています。支援者の皆様からの温かい応援とともに、数多くのキリスト教会の救援ネットワークの協力、米国の大規模NGOサマリタンズ・パスからの救援チームと物資提供、英国の救援団体、韓国飢餓対策機構からの医療チーム参加など、数多くのパートナーとの関係によって活動を行っています。今後も現地のニーズを見極めながら第2、第3の支援を行う計画です。引き続き皆様の応援をよろしくお願いいたします。募金の振込先は1面をご覧ください。



ケニア・ナイロビのソエトスラム地区



アフリカに行ってみたこと その①

# ケニアの「シープケアセンター」という学校

子どもニュースのまんがを描いているみなみなさんが今年1月16日から2月8日まで、日本国際飢餓対策機構のアフリカ研修ツアーに行きました。



保育園くらいの子どもたちから高校生までが通っている

りっぱなビルと車が  
いっぱいあるケニアの首都  
ナイロビから40分

テントみたいな小さなお店ばかりで、  
ごちゃごちゃしたソエトという地域の  
小さな学校 シープケアセンター

給食は朝と昼、  
1日2回  
“ともろこし”の  
おかゆ

10時に着いたらちやうど朝食の時間。  
みんなおかゆを飲んでいました。



家ではあまり食べられない子が多いので、学校でのカップ一杯のおかゆが大切な栄養になるよ

ケニアの首都ナイロビ郊外にあるソエトという地域には、エイズでお父さんがなくなった子や両親がいない子どもたちがおおぜいいます。ほとんどの家庭が貧しくて、1日1回の食事さえとることができません。食べる物を手に入れるために町を歩きまわったり、ゴミばこの中から食べられるものをさがしたりする毎日です。栄養不足や病気からたくさんの子どもたちが命をおとしています。

このような子どもたちが安心して勉強できるように、地域の教会が中心になって『シープケア・センター』という学校が2002年にはじまりました。

野菜を大きな麻の袋で育て、寄付で頂いたともろこしや豆などを利用して朝と昼におかゆの給食を行っています。けれどもこれだけでは十分に栄養が取れるわけではありません。その上ケニアでは今年は雨が降らなくて作物が育たず、食料の値段が3倍近くになっているので、給食を続けることがむずかしくなっています。

どこの国の子どもたちも、食べものを十分に食べてはじめて、元気に学校に行くことができ、勉強をすることができるのです。

ケニアのお友だちが、勉強をつづけることができるよう、私たちにできることを考えましょう。



## Nたまフィリピン研修報告

2月6～17日、名古屋NGOセンター主催「次世代のNGOを育てるコミュニティ・カレッジ2010」に同行し、フィリピンを訪ねました。今回の海外研修は、当機構の海外パートナーであるHOLPFI=Hands of Love Philippines Foundation Inc. が受け入れ団体となりました。(愛知事務所・浅野陽子) ※Nたま=NGOのたまごの造語



栄養状態改善のために週2回行われる給食(マンヤン)

## 希望がコミュニティーを変える！

私たちが、まず到着したのはマニラ。都市部の貧困とストリートチルドレンの問題に取り組む団体の活動地を訪問させて頂きました。異臭を放つゴミの山。そこで換金できるものをさがす人々。ドブのように澱んだ川と橋との隙間で暮らす人たち。不安定な農業に見切りをつけて、都会に出てくる人は後を絶たないと言います。

4日後、マニラを離れ、フェリーで1時間ほどのミンドロ島に移動しました。HOLPFIの活動地

担や食事のメニューを決め、買出しをして収支の計算もしたのよ」とHOLPFIの酒井慶子さんが嬉しそうに話してくれました。3年間の地道な取り組みを通して、村の女性の中に自分たちで計画し実行するという姿勢が定着しつつあるようです。

### 村に学校ができた

HOLPFIはもうひとつ、少数民族マンヤンへの取り組みもしています。サン・アンドレスから、山の中にあるマンヤンの村へ向かうには、いくつもの川を越えなければなりません。私たちは何度も流れに足を取られそうになりました。雨期には小さい子どもは流されてしまうため、学校へ行くことができなくなります。そんなマンヤンの子どもたちのために、ようやく村に小学4年生までの学校ができました。そこでは栄養状態改善のため、週2回給食が提供されています。給食の時間になると、子どもたちは、お皿とスプーンをもって1列に並びます。こんなに、と思うほど山盛りにした給食を小さな子どもたちが、あっという間に平らげおかわりをしていたのには驚きました。

### 英語をもっと勉強したいの…

その日の夜は識字教室の修了式があり、私たちが宿泊している学校へと村の人たちが集まってきました。式を待つ間に、一人の少女が慶子さんにたどたどしい英語で話しかけてきました。自分は英語が好きで、小学校を終えたら高校(日本では中学校)に進学したいということです。マンヤンの村から高校へ通うには、朝暗いうちに山を降りてスクールバスに乗らなければなりません。また、マンヤンの家庭は貧しく奨学金がなければ進学は難しいとのこと。それでも瞳を輝かせて将来に希望を見ている少女に、夢が叶うことを願わずにはいられませんでした。

◇ ◇ ◇ ◇

田舎を捨て、朝から晩までマニラのゴミ山で働くような暮らしに駆り立てられる人の流れは、物を与える支援では止めることができません。人が希望を持ち、コミュニティが変わっていく姿の中に、HOLPFIのこれまでの地道な関わりの成果を見る思いがしました。

## 森 祐理親善大使が韓国ツアー 震災体験に涙し、共に祈る

アンニョンハセヨ！韓国でのコンサートツアーは、豊かに祝された時となりました。このツアーは、日本国際飢餓対策機構の親善大使として行かせていただいたもので、忠州にある中原京教会の権泰求牧師がコーディネートしてくださり、2週間各地を巡って14回のコンサートをさせて頂きました。

今まで何度かソウルではコンサートをさせて頂きましたが、地方を回ってのツアーは初めて。期待と不安を抱えて大雪の関空を出発しました。ところが韓国は快晴、ワハハと笑う権先生や奥様の明るさも相まって、旅は終始楽しかったです。

清州・忠州・大田・栄州・安東・加平…ほぼ毎日移動しながら、時には1日3回のコンサート、夜中の12時までの集会があり、宿舍着が午前3時という日もありました。日程はハードでしたがあまり疲れなかったのは、多くの祈りと共に、韓国料理の力もあると思います。食べるお薬と言われるほど身体に良く、どんどん元気になっていくのを感じました。何より本当においしかったです！

ツアー3日目には、韓国国際飢餓対策機構の事務所も訪問。チョン会長はじめ皆様大歓迎してくださり、スタッフ全員での歓迎の歌には、涙がこぼれました。国内に千人以上の理事を持ち、世界中に支援を送っておられますが、愛と信仰を土台としておられる姿に多くを学ばされました。JIFHの親善大使として、あるべき姿を教えられた気がします。

### 心が通い合うひととき

コンサートは本当に祝されました。共に歌い、笑い、私の阪神・淡路での震災体験を聞いて涙で応えてくださる方々もおられました。でも少しずつ、何か薄い壁があるを感じてきたのです。最初は良くわかりませんでしたが、徐々にそれは日本と韓国の悲しい歴史の事実であることがわかりました。私自身、もう過去の事



2011.4 No.249

のような気がして口先で謝るのはかえって失礼だと思っていたのです。でも笑顔の奥に深い痛みを見た時、私の中から溢れ出た言葉は「赦してください。私たち日本人を赦してください」。その瞬間、壁は解け、初めて心が通じ合った気がしました。「日本は、最も近くて、最も遠い国だった。でも今近い国になった」との言葉が忘れられません。今、日本人福音歌手として、和解の歌を捧げていく使命も思われています。日本と韓国が心を結び、一つの家族となりますよう祈り続けたいと思います。(報告 親善大使・森 祐理)



マニラのスラム地区の様子

サン・アンドレスは、水田が広がり、遠くにバナナややしの木が立ち並び、緑豊かな村でした。この美しい田舎を捨ててマニラのスラムに暮らす人たちの気持ちを思いました。

3泊4日の滞在中、私たちのお世話をしてくださった村のボランティアの女性たちは「自分達で分